

阿波版 五番札所

ふたたび徳島で

第42回全国公立小中学校事務研究会徳島大会が、アスティとくしまを主な会場として開催されている。期間は、7月28日から30日の三日間。「子どもの豊かな育ちを支援する学校事務

第42回 全事研大会開幕

ぞめきの音と共に華やかに！



地元小学生が阿波踊りで歓迎

オープニングに花を添えた。二度目となる今回も先輩たちの思いを受け継ぎ、学校事務職員の熱気が伝わる阿波会議となるよう、全会員で大会運営に携わったこの経験が、今後の県事研のさらなる発展に繋がることを期待している。



創刊号
発行所
第5分科会
(徳島支部1)

心をつなぐ広報紙

午後分科会では、日本NIE学会常任理事である鳴門教育大学大学院准教授阪根健二氏、徳島新聞社編集局長読者室部長森野永巳氏を講師に、新聞づくりを体験した。リーダー役を務めた研究部員達は「鳴門教育大学公開講座」や「事務職員



阪根健二氏



森野永巳氏

第5分科会では午前中、学校事務職員の地域連携への参加及び学校事務組織のあり方の二つのテーマで、シンポジウムが開かれた。鳴門教育大学院阪根健二准教授、徳島新聞社森野永巳部長、教職員課長白井俊氏、富田中学校小山晃弘事務室長の4名がシンポジストとなり、貴重な意見が出された。

と地域が一体となり、教育を推進するためには、ネットワーキングが大切である。事務室が広報紙という手段に、本部事業と徳島新聞社の積極的な関わりが紹介された。また、災害時に避難所となる学校は、非常時にこそ、素早く

シンポジウム 事務室未来展望

徳島で事務室長誕生なるか

より情報発信を行い、地域連携の中心を担っていくべきである。森野氏からは、グループ化について、今後の



広報紙づくりに取り組む参加者

のたための新聞づくり講座」を通して、新聞づくりのノウハウを一から学び、この日を迎えた。新聞講座では、地元紙である徳島新聞の協力により、校内号外・地域号外を徳島新聞の宅配網を通じて地域に届けるといった取組が、地域連携に大きな効果を上げている現状を学び、広報紙の重要性を学ぶことができた。また、講

里芋の会 習作展



徳島県公立小中学校事務職員とOBの方々を中心と

なって、絵画・書道・工芸などの習作展が開かれています。この「里芋の会習作展」は、お互いの趣味を持ち寄り、学校事務職員の楽しい交流の場にしよ

るよう会員一同力を合わせました。第5回徳島大会(昭和48年度)の事務局長であられた、故中友治主査兼事務局長が描かれた、風景画やスケッチブックも見どころです。

期日 7月28～30日 9:30～18:00 (30日は13:30まで)
場所 アスティとくしま2階「フレアとくしま展示ギャラリー」
(入場無料)

編集後記

私たちの新聞「五番札所」は、四国八十八ヶ所霊場巡りに由来しています。徳島には一番から二十三番までの霊場があり「五番」目は地蔵寺ですが「羅漢さん」として親しまれています。霊場巡りとは、弘法大師の修行の足跡をたどる旅。すべてをわれば、煩惱が消え、願いが叶うといわれています。

この旅には「お接待」というおもてなしがあります。修行の旅を励ます気持ちと寄託の気持ちから「お接待」は素直に受け、地元の方とのふれあいを大切にしたいものです。第五分科会参加者の皆様に、徳島からお接待の気持ちをたくさん届けたいと思います。